

一方「まつり山陽」は厚狭天満宮奉納という古式行事が根底にあり、駅前商店街の活性化や前夜祭の花火などを加えた市民まつりへ発展している。

2) 各委員による両まつりの視察

委員は旧市町半々で構成されており、両方のまつりがわからないということでは議論も深まらないということから、部会開催中に実施された両まつりを各委員が視察することとし、両まつりの更なる理解と今後の方向性を考えるべきとなった。

3) 両まつりの一本化について

現在の両まつりは、いずれもそれぞれの地域に密着して行われており、両まつりを廃して一本化することは困難であろうという意見で一致した。

ただ、これらのまつりを廃止するのか、継続するのかという議論を本検討部会で行うべきではなく、それぞれの地域で判断すべきものと位置づけた。その上で、新たに市民参加型のまつりを創造することを検討した。

4) 新しいまつり創造について

これまでの協議の中で、全く新しいまつりを検討するのか、現在の両まつりから取り入れられるものは取り入れるのかという議論を経た。「まつり山陽」の前夜祭『お祝い夢花火』は、山陽商工会議所青年部の熱い気持ちと行動力に裏付けられ、新市にとどまらず、市外にもアピールできるものである。さらに、旧小野田でも夏に開催される『港まつり花火大会』も、周辺市町にも誇れるイベントになっている。これらの共通点を新市民まつりにも生かしていくべきであり、「花火で始まり花火で終わる」という意見が大勢を占めた。残る本祭の内容については、提言にあるようなコンセプト（概念）を包括した形で開催すべきであり、その詳細についてを本検討部会で決めることは適当ではなく、実際に運営に関わる実行委員会を組織し、実現していくことが望ましいという結論となった。

④提言内容の根拠

提言内容の具体的な根拠については、以下のとおりである。

イ) まつりの名称について

名称に地名を入れることで、市外にも広くPRでき、継続することで、名称から内容も想像できるようにもなる。

ロ) 開催時期について

まつりの内容により開催時期を考慮すべきだが、従前の両まつりが開催された11月は気候的にも適しているが、11月は近隣のまつり（宇部まつり等）も開催されることから同日開催は避けるため「頃」とした。新市発足の3月22日前後では気候や各種行事との関係で困難であると判断した。

ハ) 開催場所について

花火で始まり花火で終わるというまつりのコンセプトから、現在の「まつり山陽」の前夜祭『お祝い夢花火』を継承し、フィナーレを旧小野田の海岸線で行うとするこ